

Uターン・Iターン就農者(新規参入者)調査



1. 氏名(ふりがな) 沖田 浩一(おきた こういち)さん
2. 就農場所(市町名) 長崎市琴海町
3. 家族構成 本人、妻、子(2歳)
(労働力は本人と両親:別居長崎市在住)
4. 就農年月 平成23年4月
5. U・Iターンのきっかけ

自分で何か責任を持ってしたかった。会社では仕事を任されても責任は社長が取ってくれました。

たまたま農村部に住居があり、移住していたところに離職者就農制度の研修があり、応募して受講した。結婚を機会に、会社をやめて就農を決意しました。

6. 農業にかける想い

農業の内容を調べていくうちに住居のある地域で何が良いかを県の担当者に相談したところアスパラガスを紹介された。

性格的にいろいろな作物を作ることは向いていないので、アスパラガス一本でやっていくことにした。

7. 経営作物(主なもの、面積) アスパラガス 20a 米、野菜 70a

8. 作物選択の理由

琴海で栽培されている作物で、面積的に多くはなく生活していける作物。

初期投資に多額の資金がかからないこと。長期で安定した収入が得られること。収穫時が長期であり、毎月収入が期待できる。研修に入る前に県からアスパラの資料を入手。

9. 就農時の苦労

琴海の先進農家で研修を受け、農業の基礎知識・技術を学びました。実際に経営すると研修で気づけなかったことも見えてきます。

研修時は受入農家に頼っていたのだということがわかります。就農にあたって、研修中に農地と施設の紹介を受けたことが幸運でした。

農業経営に必要な機械も、住居を借りるときに借用しました。(就農するにあたりある程度の資金は準備してました。)

実際に借用したハウスはみかんのハウスであったため、伐採と伐根などに苦労した。

10. 具体的な支援内容(認定就農者手続き、就農支援資金、補助事業等)

就農にあたっては部会の人たちが協力してくれました。また、普及センターの職員がよく話を聞いてくれたので、いろいろ聞ける人がいたことも助かりました。

受入農家には今でも指導を受けています。

11. 現状(生産量、主な作業体系で留意するもの)

管理作業の中では、いかにしっかり管理するかに心がけています。病気が発生しない条件と収量確保のための管理のタイミングを見極めていきたいです。

12. 農業を行う上での楽しさ、厳しさ

収穫は喜びです。自分が目標とする大きなものが量多く取れたときはイメージどおりで喜びが大きいです。

経済的な側面できついところがあります。高技術に達するまで毎日の管理が重要だと思います。

13. 将来の構想、新しい取組など

現状の施設で目標収量は3tなので収益をあげていくことです。

14. これから就農をめざす人たちに一言

始める前に計画をしっかり立てておくことです。自己資金はいくら必要かなど。

農業で生活していけるのか、自分や家族が生活していけるのか計画をしっかりとる必要があると思います。

本気でするならあきらめるな！（絶対できる）。強い思いがあれば、考えるはず。

自分も相談したときに「甘くないよ」と言われた。